
GAME!

ハナマル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GAME！

【コード】

N7100Q

【作者名】

ハナマル

【あらすじ】

事故で死んだ主人公桜井直人と親友の青木涼也、しかし死んだ先に待っていたのはクリアすれば生き返れるというGAMEだった！

部屋（前書き）

初投稿です・・・
いきなりぐだりそうですが アドバイスお願いします。

部屋

街を囲むようにして、そびえる山。
夜になると暗い山とは対照的にひかる街。

そんなどこにでもありそうな街でそだった桜井直人は地元の大学にかよっていた。

小学校のころからクラスで友達も多く、それなりに人気のあった桜井は、高校からの友達で親友の青木涼也とこれから遊びにいくところだった。

桜井の住む小さなアパートの玄関をあけると、すでに青木は車から降りて待っているところだった。

いそいで階段をおり、車までいくと、

「おせーよ直人、10分遅刻！」

といつもながら時間うるさかった。

「悪い悪い、寝坊した。」

とてきとーにあわせて、車に乗り込んだ。

「んで、最近どうなの？岸原とは」

「まあ 美咲とは順調だよ。」

岸原美咲は交際して2年になる彼女だ。涼也は気を使ってみよじで呼んでいるといっているが、実際名前で呼べないほどの奥手な奴なだけだ。

今から美咲の誕生日プレゼントを買いに行く予定だ。

「まっ俺様が誕プレを選べば岸原も喜ぶこと間違いなしだ。」

「ぬかせ。」

とドヤ顔をする涼也をあしらいながら

道を30分ほど進めていると

突然涼也が

「あぶねえええ!!」とさげんだ。

ふと目にはいったにはトラックが逆走してくる姿だった!

まだ500メートル程先に見えているが

どうやら運転手は眠っているらしい。

「とにかくよける!」

幸いまわりに車はなくなるとか反対車線によけたが、何を思ったのか、トラックももとの車線にもどりはじめた!

「あの野郎おお!」

そう、トラックは 俺たちを殺す気らしい。

「ふぜけんな!」とにかくわめくしかないこの状況!

しかもトラックが近くづくにつれてだんだん見えてきた。

ほくそえんだトラックの運転手の顔、苦々しい薄笑いを浮かべてどんどんせまる。どこかで見たことがあるような・・・だが今はそんなことは考えていられなかった。

さらに車線をかえたが、トラックもやはりかえてくる!

トラックが目の前に迫った!

「うああああああ!!」

二人の悲鳴は無残にもトラックの乗用車の衝突音によりかき消された・・・

いそがなきゃ！ タクシーからおりて全速力ではしる。
いつきに上がる目の前の階段。

直人の母から連絡があったとき頭が真っ白になった。

「直人が・・・直人が・・・早く病院にきて。」
声にならない声だった。

長すぎる廊下を走りきり、ついた208号室、
まず目に飛び込んできた泣き叫ぶ家族、険しい顔の医師、数人の看護婦。

そして動かない直人・・・

「直人！！！」

もうおそかった。

直人は半ば即死の状態だった。

隣には涼也の遺体と遺族がいた。

・ もはや何も考えられなかった・・・ 誰よりも大声で泣き叫んだ・・・

.....

いってえ　・・・　頭がわれそうだ・・・

ここはどこだ？　真っ白な壁に囲まれた部屋、大きさは教室程度か。
真っ白のベットでねてみたいだ。

すると突然目の前の壁にうめこまれた、テレビのようなものがついた。
そしてタキシードをきてうさんくさいちよびひげをはやした男がうつった。

「桜井直人君、突然だが君は死んだ。」

は！？何だこのちよびひげ！？頭おかしいのか！？
あまりのあほらしさに言葉も出なかった。

「君はトラックと正面衝突し死んだ。」

何をばかな・・・　そうだ！俺はトラックに・・・　あれ！？涼也は！？涼也がいない！

「さらに青木涼也も死んだ。」

「えっ・・・」

涼也も死んだ！？ その言葉は自分の死よりショックが大きかった。思わず出た涙だんだん滝のようにあふれでる。

「今から君は裁かれる。ただし、神による裁きなどではありません。この裁きは殺害された者、もしくは殺害後なんらかの理由で死んだ者だけがつけられる、いわばチャンスなのです。」

チャンス！？ やはりこいつは頭がおかしいんだ。

そんな話聞いたことすらない。口に出して自分に言い聞かせた。

「きつと夢か何かだ、まだ俺も涼也もいきてる！」

「残念ながら君の死は事実です。でも安心してください。君はこれから裁かれます。もし裁きをクリアできたなら、生き返ることができます。」

「生き返れる！？」

「はい 今からあなたはこの一ヶ月の間で殺されたものと殺したものとでGAMEをしていただきます！」

GAME！？そんなモンで生き返れるのか！？もはや裁きですらないじゃないか。

「ではまず会場を移動してもらいます。ルール説明はその会場で行われます。」

そして右の扉が開いた。混乱していて右に扉があつたなんてきずかなかった。

そして出てきたタキシードをきた男たち二人に会場えと案内されて

いくのだった。

ルール（前書き）

発表されたルール。 アンドウは大切な人を殺し、守るGAMEの
ルールを発表した。 生き返るのは だれだ！

ルール

会場へは目隠しをされて移動させられた。

タキシードの男二人に連れられ歩きながら、直人の頭は不安と悲しみと希望でいっぱいだった。

会場へついたときに 目隠しはずされた。

あたりを見回すと 30人ほどの人たちが大きな部屋の中にいた。つくりは先ほどの部屋とあまりかわらないようで、白い壁にかなり大きめのモニター、部屋の大きさはさきほどりかなり広めだ。

周りを見渡しながら涼也を探した。すると壁の隅のほうにポツンと見慣れた顔を見つけた。

「涼也!!!」

ビクッと驚きこちらを見る。

「な・・・直人！ よかった！無事だったんだな!？」

どこから無事という言葉がでるんだよと涼也の天然ぶりにここにきてはじめて笑った。

少しほっとしたのかもしれない。

「どうやら、俺たち死んじまったらしい。なにかきいたか?」ときいてみたがやはり涼也もおなじような部屋で同じような説明しか受けてないらしかった。

するとおおきなモニターがとつぜんついた。

そしてあのちよびひげがあらわれ

「殺された皆様。 私、この裁きの説明をさせていただくことになりました。 アンドウです。」

あのちよびひげの名はアンドウというらしい。

「では 皆様にルールの説明をいたします。まずここにあつまつた32人は、この一ヶ月で運悪く殺された者たちです。この32人を4チーム8人に分けます。これは殺害側も一緒ですのでご安心ください。

最終的にはこの中の1チームだけ生き返ることができます。

ルールは簡単です。 現実世界にもどり大切な人を守ること。 八人の中から1人リーダーを決めその人の大切なひとを8人で守ってもらいます。」

はあ!?! どんなルールだよ!もしリーダーになったらと冷や汗が出てきた。

「守る側は殺害側から守らなければなりません。もちろん相手は武器所持。こちらは相手のリーダーを殺すかタイムリミットまで守らなければなりません。 さらに殺されたものは、たとえチームが優勝しても生き返りません。」

優勝!?!どうゆう意味。 そんなことを考えてるうちにアンドウはチームを発表しました。

「第一班 青木涼也 田口誠二 国智宏 斉藤千夏 林知樹 桜井直人 小泉麗 山浦春菜。」

よくわからんが涼也といっしょでよかった!しかし・・・

「第一班 リーダー桜井直人 守るもの 岸原美咲。」

それを聞いたとたん 頭が真っ白になった・・・

だが涼也は「大ジョブだ 俺が命に代えても岸原をまもってやるからさ。」

そんなことはさせない！おれが涼也も美咲もまもりきる！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7100q/>

GAME!

2011年10月8日17時33分発行